

パネル討論「企業における新入社員に対する情報処理教育」

ソフトウェア開発会社における新人教育

株式会社 東初コンピュータ マネジメント
代表取締役 小泉 澄

1. 教育の背景

- ① 新人の人数が10～15名と少数であること
- ② 出身学校がいろいろであること
大学卒・・・5名前後
専門学校(2年)卒・・・5名前後
専門学校(1年)卒・・・3名前後
- ③ 情報関係の知識・技能がバラバラであること
一般的にいえば、大卒は素人、
専門卒は玄人。
- ④ 会社の現業務からのニーズがいろいろであること
* ビジネス・システムの設計・構築・・・エンド・ユーザからの仕事
* 制御システムのソフトウェア開発・・・メーカーからの仕事
* ビジネス+制御の総合システム開発・・・エンド・ユーザからの仕事

当社の新人教育には、少人数の新人を、業務からの異なるニーズに合わせて実践的な教育を行い、フィールドに出すことが要求されている。

2. 教育の狙い

- ① ビジネス・システムの設計・構築に当る、SE (AE、PE) の養成
- ② 制御システムのソフトウェア開発に当る、SE (TE、DE) の養成
- ③ 総合的システム開発に当る、SE (AE、PE、TE、DE) の養成

なお、プログラム作成能力は、ソフトウェア開発会社の技術者として、当然持つべきものとしている。

3. 教育内容

①一般教育・・・全員

企業論、組織論、業界展望、文書作成技法、社会人のマナーなど(10日)

②技術教育は、Aコース(玄人)、Bコース(素人)に分かれる (65日)

〈Aコース〉

アセンブラ講義・演習

操作法

C言語(講義・演習)

C言語によるプログラム設計・構築演習

COBOLまたはアセンブラによるシステム開発演習

〈Bコース〉

コンピュータの基礎知識

操作法

COBOL講義・演習

システム設計概論

COBOL言語によるシステム開発演習

アセンブラ講義・演習

COBOL復習演習

③OJT(7月上旬より、翌年2月末まで)

* OJTに必要な技術は、プロジェクト・リーダー、サブリーダーによって直接指導を受ける

* OJTの成果の評価は、9月、12月、3月に行い、3月の評価は4月の配属に反映させる

4. 教育体制

①企画・・・教育部長（社員教育責任者）

協力：技術担当取締役

②担当・・・代表取締役、技術取締役、技師長、副技師長、主任技師、
教育部長、社外講師

③教科別担当者

一般教育・・・・・・・・・・・・・・・・代表取締役

<Aコース>

アセンブラ・・・・・・・・・・・・・・・・技師長、副技師長

操作 法・・・・・・・・・・・・・・・・主任技師

C言語、プログラム設計・・・・・・・・社外講師

<Bコース>

基礎知識・・・・・・・・・・・・・・・・代表取締役

COBOL・・・・・・・・・・・・・・・・教育部長

システム設計概論・・・・・・・・技術取締役

システム開発演習・・・・・・・・技術取締役、教育部長、社外講師

5. 教材その他

<Aコース>

アセンブラ・・・・・・・・社内テキスト、マニュアル、社内マシン使用

操作 法・・・・・・・・社内テキスト、社内マシン使用

C言語・・・・・・・・社外講師作成テキスト、社外マシン使用

<Bコース>

基礎知識・・・・・・・・担当者作成テキスト使用

COBOL・・・・・・・・ ” 、社内・社外マシン使用

システム設計概論・・・ ” 、 「情報システム開発・設計」

システム開発演習・・・ ” 、社内・社外マシン使用

その他。ビデオ・ソフトウェアなども使用

6. 現在および今後の課題

- ①プログラミング中心の教育からの脱却
- ②A E教育の基礎として
販売、生産、財務・会計のシステムを学習させる
- ③情報処理技術者認定試験を越える実力を持ったS Eを志向させる
- ④一貫教育との整合性を強化する

以上